

## 2021年(令和3年)11月オホーツク管内倒産集計

令和3年12月2日

株式会社 東亜リサーチ

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

### 2か月連続で発生ゼロ 累計件数は過去5年間で最低

#### 月間発生ゼロは今年5回目

■前月比	件数	同数(令和3年10月)	0件)
	負債総額	同数(	0円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	1件減少(令和2年11月)	1件)
	負債総額	1億2,500万円減少(	1億2,500万円)

#### 令和3年11月の発生状況

令和3年11月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は、発生件数がゼロだった。10月も発生がなかったため、前月比では同数。前年同月比では皆減となった。月間発生ゼロは2か月連続となり、今年5回目を数える。年間5回の月間発生ゼロは令和元年以来となる。

過去5年間の11月の発生状況を見てみると平成28年1件、29年3件、30年1件、元年ゼロ、2年1件の発生推移であり、平均件数は1.2件、負債総額は1億4,040万円。11月は元年を除いて発生が続いてきたものの、今年は発生ゼロに止まった。

### 過去5年間と今年1～11月の発生推移

今年1～11月の発生累計は件数で10件、負債総額は9億9,300万円。前年同期間と比較すると件数は同数であるが、負債総額では4億5,000万円の減少となった。

過去5年間の発生推移は【右・表】の通りで、平均件数は14.0件、負債総額が16億2,918万円。今年は件数、負債総額ともに平均値を大きく下回り、件数は前年と同数で最低となるほか、負債総額は元年に次いで2番目に少ない金額となっている。

過去5年間と今年1～11月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
28年	16件	26億8,900万円
29年	20件	10億8,700万円
30年	13件	21億4,100万円
元年	11件	7億8,590万円
2年	10件	14億4,300万円
3年	10件	9億9,300万円

### 今後の見通しと問題点

コロナ感染拡大が落ち着き景気回復への明るさが見え始めていたなか、新たな変異株「オミクロン株」の脅威により、景気停滞のリスクが再び高まるなど、これまでの楽観的な状況は一変した。こうしたなか世界的な供給制約や原油高などで輸入物価が高騰しており、10月の企業物価指数が40年ぶりの伸び率となるなど原材料の高騰が企業経営を圧迫しており、懸念材料となっている。

オホーツク管内をみると漁業、水産業ではホタテが好調であるほか、心配していた秋シャケの水揚げは前年を上回った。干ばつ傾向による農産物の作況もバラツキはあるが大きな被害とならず、ウッドショックの影響が心配された住宅新築棟数も前年を上回っている反面、回復が期待される飲食、観光、サービス関連業界では変異株の出現で先行きに不透明感が残る。

管内倒産は依然として抑制されているが、業績悪化で経営体力が限界にきている企業もある。実質無利子・無担保のゼロゼロ融資を受けたが、資金が底を突き再度の借入を余儀なくされている企業が出はじめているが、追加融資は金融機関も慎重にならざるを得ず、本当のコロナ倒産はこれから来るとの指摘もあり、今後の動向を注視したい。